

1. 平成22年度一般会計決算のポイント

《実質収支》実質収支は47億4,400万円
 ~実質収支は黒字となったものの、市税収入は2年連続減収となるなど、厳しい財政運営が続く~

個人市民税が前年度と比べて219億円の減収。市税収入全体でも133億円の減収となりました。最終的には、2月補正時点での見込よりも、企業収益の改善により法人市民税が増加、また、収納率の向上により個人市民税が増加したことなどから、**実質収支は47億4,400万円となりました。**

一方、東日本大震災が法人市民税等へ影響を与えることも懸念されており、今後も不透明な状況が続きます。

なお、実質収支の1/2（23億7,200万円）は財政調整基金に繰り入れ、残りの1/2は23年度の財源として活用します。

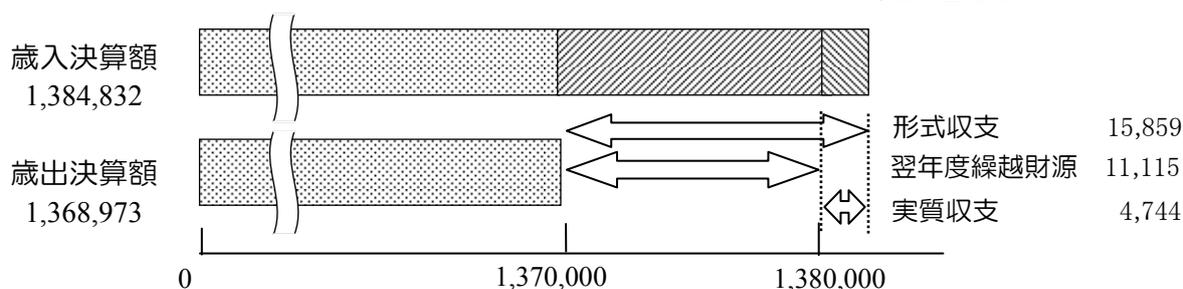
◇一般会計決算の状況

(単位：百万円)

区分	22年度①	21年度②	増減①-②
歳入決算額 A	1,384,832	1,518,559	▲133,727
歳出決算額 B	1,368,973	1,504,090	▲135,117
形式収支 C=A-B	15,859	14,469	1,390
繰越財源 D	11,115	13,309	▲2,194
実質収支 E=C-D	4,744	1,160	3,584
当該年度に活用した前年度剰余金 F	580	182	398
当該年度のみ収支 G=E-F	4,164	978	3,186

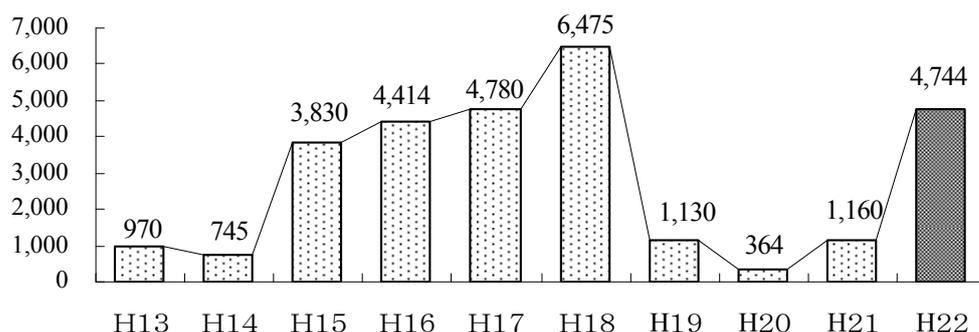
一般会計決算の状況

単位：百万円



実質収支の推移

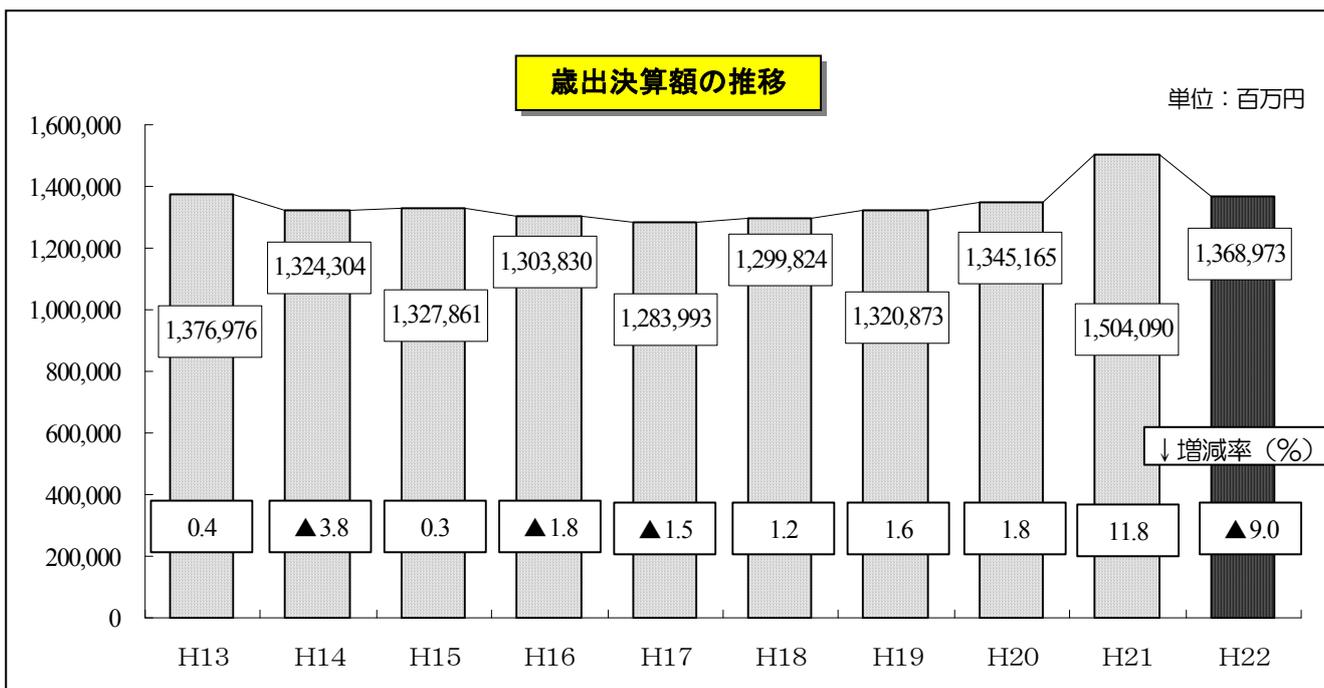
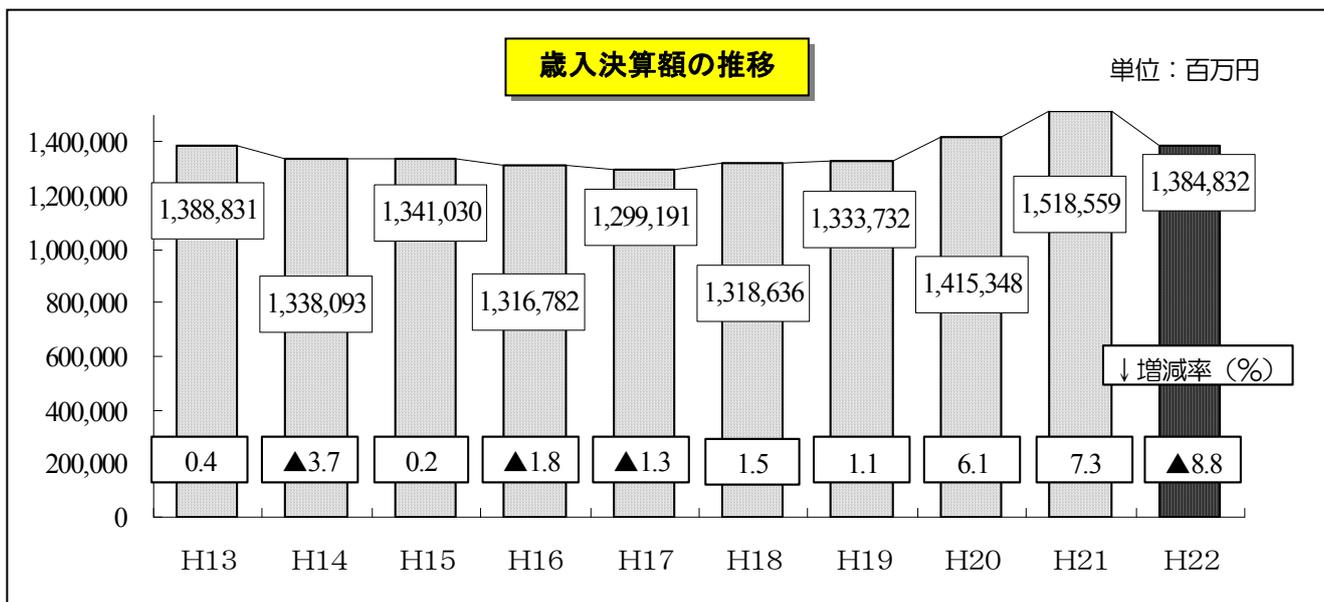
単位：百万円



《歳入・歳出》決算額は5年ぶりに減少

決算の規模としては、定額給付金給付事業が21年度で終了したことなどにより、**歳入・歳出ともに5年ぶりの減少となりました。**

歳入については、前年度に比べ1,337億2,700万円減の1兆3,848億3,200万円に、歳出については、前年度に比べ1,351億1,700万円減の1兆3,689億7,300万円となりました。

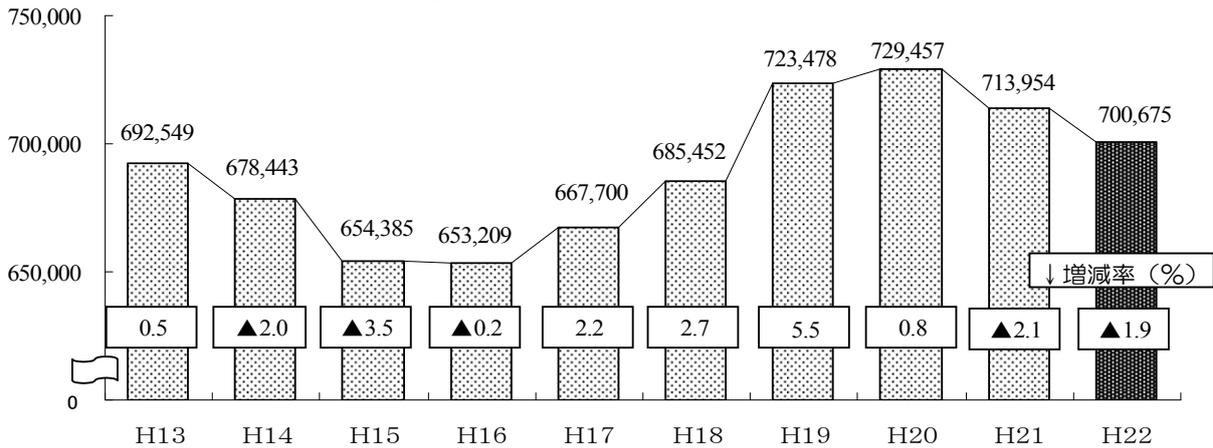


《市税》前年度に引き続き減収

市税は、一人あたり給与収入金額等の減少によって個人市民税が大幅に減少したことなどにより、前年度決算比▲1.9%、132億7,900万円減の7,006億7,500万円となりました。これにより、2年連続で減収となりました。

市税決算額の推移

単位：百万円



《市債》発行額は3年連続、市債残高は2年連続の増加

22年度当初予算では、市税収入が大幅に減少する非常事態の中で、緊急避難的な対応として市債を増額して発行することになりました。最終的に一般会計の市債発行額は、前年度決算比2億7,700万円(0.2%)増の1,282億2,100万円となりました。

市債残高は前年度末より247億4,800万円(1.0%、市民一人あたり4,200円)増の2兆4,106億4,100万円となりましたが、将来の市債償還に備えて積立している減債基金の残高については、403億7,400万円増加して、803億6,800万円となっています。

【参考】22年度末の市民一人あたり一般会計市債残高 約65万3,800円

市債発行額及び市債残高の推移

